



おかむら通信 209号

令和4年9月号

<ご挨拶>

みなさま、こんにちは。いかがお過ごですか？なんてゆったり感とは無縁な状況にある方がほとんどではないでしょうか？

院長の周辺では、先月中旬、お盆休みがあったのもかわらず、わややな事象がいくつかありました。松戸市の外の医師会でも先生たちも千葉県民のために大変なお仕事に大汗をかいておられたようです。わたくしは新型コロナ感染のため、10日間私の外来出勤は禁止されました。幸い、お盆休みがつづいていたため、すこし余裕を持てました。が患者さん及び周りの方々にご迷惑をおかけいたしました、ごめんなさい。

「今月の言葉」

最近、一部の医師たちや、一部の医療に関与する方々、との話がつながりにくいことがあります。難しい環境の中、おたがい少しだけ前向きに努力して、このうすい障壁をはずして理解しあえたらよいですね。

<院長から>

1 総合診療って何なんですか？のご質問、日本ではこの制度がまだ未発達です。内科 外科 麻酔科なども含めて一般のほぼすべての診療に携わる、という事です。婦人科、小児科、老人科、脳神経、呼吸器科、心血管内科、腎臓内科、勿論 消化器科 整形外科 耳鼻科、泌尿器科、精神科、となります、すごいish、海外ではこれが普通です、ドクターこの訓練を受けています。したがって基本的に医師たちの考え方方が違ってきます。

2 院長は、小児科の先生たちへの応援のために月に1回くらい夜間小児救急医療センターにお手伝いをしていました。今回はうかつにもコロナに感染してしまいました。40度近い発熱した乳幼児たちに、万全な防備でないまま治療にあたってしまいました。反省しています。

3 これからは、コロナの後遺症、小さな子供さんをのぞいて、広範囲な後遺症が潜んでいます。軽症を含めればほとんどの方に起こりえると思ってください。あまり注意されてないものに、食欲不振、倦怠感の持続、やる気のなさ、うつ状態等です。感染後約2か月間は急激な運動、短期間のきつい仕事はやめたほうがよいようです。くわしくは外来で。

4 最近、不明熱、全身の各所の筋肉痛、なかなかおらない炎症の方が、やや見受けられます。

5 いま、小さな子、幼少児の感染がものすごいきおいで広がっています。発熱外来の医療機関も検査、治療の限界で実際の把握が難しくなっています。大人にかかると、重症化する方も出てきています。まだまだ注意してください。





6 一方 症状のないところに病あり。わからずに入ると、いつの間にか 時間とともに病気が出現し、進行しているのですね。

7 高血圧症そのものに、すでに合併している疾患の存在が、分かってきます。さらに長期的にほっておくと、狭心症、脳梗塞、脳溢血、腎障害、高脂血症の影が近づいてくるのです。おそらく頸動脈のプラークもしかりです。とにかくお体を大事にしてください。

8 また、自宅での血圧測定値が高血圧治療に大変役立ちます。3日に1回でもよいので、お渡しした血圧手帳に記載していただけます。それぞれの病態に応じて患者さんにあった薬をお出しています。

9 まだ暑い日がつづきます、熱中症、自宅での発症が外より何倍も多いのです。中年から壮年、高齢の方がたには、おそらく自分では発症がわかりにくいので、なにかあったら連絡、或いは早めに治療に来てください、点滴1本でも大分違います。

<8月 院長の活動報告>

- 01/（月）「潰瘍性大腸炎治療の現状」 新東京病院消化器内科部長
- 19/（金）「新型コロナ感染症の後遺症」 某医師会 開業医先生、
- 22/（月）「不明熱・自己炎症性疾患における診断と病態」
「家族性地中海熱の薬物治療のポイント」 長崎大学 助教授
- 23/（火）「GLP-1受容体作動薬における個別化糖尿病治療の実践に向けて」
金沢医科大学糖尿病・内分泌内科教授、
- 29/（月）「乳児腸内細菌叢の成り立ちと疾患」 岡山大学教授
「子ども、コロナ、こころ」 長崎大学小児科教授
- 30/（火）「PRO (patient reacted outcome) をめざしたGERD治療」
「注意すべき早期胃がん」 順天堂大学消化器内科教授／消化器内科准教授
- 31/（水）「ライフイベントを考慮した女性IBD患者の診療について」
日本钢管病院消化器内科先生／大阪公立大学総合医学講師

同じ病気でも、時がたつと、治療法がかわったり、診断も改良されたりしますので、それこそ毎月、各種情報をみているべき時代になりましたね。医療人として

食欲の秋、芸術の秋火…誘惑はいいぞいですが、
心身共に身体調と肩しやすい秋、と早くも実感しています。

夏の疲れ対策と、秋への順応力を高めて、
しかし趣味など楽しめる秋にしちゃいますね。 サイカ
七種

